

卷頭言

「移行する大衆演劇～人々の記憶の現像と制度の再建～ 移轉的大衆戲劇：民眾記憶的顯影與體制的重建」論文集

細井尚子（立教大学教授・アジア地域研究所所員）

この論文集は、2021年12月10日・11日、台湾・国立台北芸術大学戯劇学院主催、立教大学アジア地域研究所・立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）共同プロジェクト研究「『東アジア文圏』研究基盤の構築—娯楽市場における『大衆』『演劇』『大衆演劇』から—」共催により開催されました国際シンポジウムにおける講演、及び発表時に頂いたコメント等を受けて精練した論文をまとめたものです。当該国際シンポジウムは以下のような主旨で開催されました：

承續歴年研究議題與領域探測的成果，本研究網絡學者透過戲劇史料、報刊、劇評檔案、表演市場數據、演出影像檔案等研究素材，重建20世紀初期以降政治體制、商業娛樂市場、國際交流的圖像，並生動地讓民眾記憶在各種相互交錯的史料中顯影，逐步鋪陳「大衆戲劇」的概念與實踐在體制與常民生活交織的張力下移轉變遷的物質歷史。

本屆研討會主題為「移轉的大衆戲劇：民眾記憶的顯影與體制的重建」，訂12月11日～12日（六至日）採線上實體並行方式舉行，。我們預計邀請台日韓中學者及青年研究者參與研究論文發表，研究領域涵括戲劇史料研究、戲劇/戲曲美學、戲曲評析、商業演劇機制、大衆媒體、地域研究、文藝政策、表演研究等面向。另外，本屆研討會特別邀請青年學者參加論文發表，讓新一代研究者的觀點與關心被看見，也提供場域讓新世代研究者與跨地域研究網絡建立聯繫。

我們期許承續歷年的研究成果，進一步深度探測大衆戲劇研究的史觀與方法論建構過程，同時透過各國研究案例的論述，突顯地方性的特色及其延伸至當代戲劇活動的持續性影響，並嘗試以研究成果為基礎，展望臺灣及亞洲地區未來戲劇研究之發展趨勢與領域拓寬之可能性。

本研究ネットワークは、これまでの研究課題・研究領域の成果を基に、演劇史料、新聞、演劇評論アーカイブ、興行データ、公演映像アーカイブなどの研究資料を通じて、20世紀初頭以降の政治体制、商業娛樂市場、國際交流の像を再構築し、絡み合った様々な史料の中に民衆の記憶を鮮やかに反映させ、「大衆演劇」の概念と実践が、体制と人々の生活によって織りなされる張力の下で移行し変遷する身体的歴史を整理し編んできた。

今回のシンポジウムは「移行する大衆演劇～人々の記憶の現像と制度の再建～」をテーマに、12月11日～12日にリアルとオンラインを併用して開催する。台日韓中の研究者が発表する予定で、研究分野は演劇史料研究、演劇/戲曲美学、戲曲評析、商業演劇メカニズム、大衆メディア、地域研究、文芸政

策、演技研究などを含む。また、今回のシンポジウムでは特に若手研究者にも発表してもらうことで、新世代の研究者の観点や関心に触れてもらい、若手研究者には地域を超えた研究ネットワークとつながる場を提供する。私達はこのシンポジウムを、これまでの研究成果を継承しつつ、大衆演劇研究の歴史的・方法的構築過程をさらに深く掘り下げ、各国のケース・スタディを議論することで、地域の特性や現代の演劇活動への継続的な影響を浮き彫りにし、また発表される研究成果を基に、今後の台湾及びアジア地域の演劇研究の発展と分野拡大の可能性を展望する試みとする。

本共同研究のメンバーは若手研究者の国際研究集会における発表の機会が限られているという認識を共有し、20年12月の国際シンポジウムで2名の発表枠を設け、21年7月には若手研究者に特化した「2021大衆戯劇研究・青年学者論壇 商業与芸術之間」を開催しました。この「青年学者論壇」で研究発表を行った若手研究者も発表者として参加した当該国際シンポジウムは、2018年度より展開しております立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）共同プロジェクト研究の最終成果報告という位置づけでもあるため、論文集は立教大学の機関リポジトリで公開することとなりました。

本プロジェクト研究が東アジア文化圏を研究対象とするのは、この空間が文化的基層に中華文化を共有し、長い時間の中で中華文化という「他」と「自」の折り合いをつけて各々の文化を形成したこと、また、19世紀末から20世紀、「西洋」という「他」により「非西洋」の「自」を再構築し、時代環境に合わせて「自」を表象化してきた歴史を有することによります。共同研究のメンバーは、各々自身の専門から東アジア文化圏に属す国・地域の大衆娯楽を研究対象としてきました。それを東アジア文化圏という視界範囲に置き直し、娯楽市場における近代の表象を明らかにすることで、東アジア文化圏研究という枠組の基盤を構築することを目標としています。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、国際共同研究の活動は約2年にわたり制限を受けましたが、幸い大学のご理解を得て当初3年間であった活動期間の1年間延長が認められ、本論文集を編むことができました。しかしながら本プロジェクト研究のメンバーは、この論文集で研究活動が完結するのではなく、何らかの形で東アジア文化圏研究として、今後も共同研究を展開していくことが重要であるという認識を共有しております。

是非、多くの方々のご教示・ご鞭撻を賜りたく、心よりお願い申し上げます。